

## 1.旅の同伴者

質問：皆さんの教会で、「わたしたちの教会」というとき、誰がその仲間でしょうか。

逆に、どういう人、またはグループが、教会内外で、取り残されているのでしょうか。

教会こそ、仲間という言葉をもっと意識化させることで、教会の活路につながる  
同じ活動に携わっている、共に学んでいるメンバーをより身近な仲間と感じる  
ミサ、式典、教会活動に参加し、互いを認め合える者同士  
主日のミサに参加し、顔見知りで親密性を持っている者同士  
教会で行なっている聖書通読の仲間  
声をかけられると、仲間意識が再認識できる  
信仰を共にする仲間、信じる者としての仲間意識があること  
生徒・教職員・保護者は常に一致して物事に取り組もうと努力している  
施設の長は共同体意識を醸成しようと努力している

自分の救いになる、全てのキリスト教の信徒  
私たちはこの世にいる時は天国に向かって旅をする旅人とともに旅をしている  
外国人にも優しく接してくれて、少しでもしゃべってくれるのが嬉しい  
外国人がいて、にぎやかな教会、ミサ後、集まって話をしているのがいい  
求道者を手厚く迎えられている  
ミサに与れる人だけでなく、救いを求めるすべての人、ミサに来られない人も仲間  
コロナ禍で受付が温かい雰囲気になり、聖堂内外で距離をとるので、新しく教会に来た人が入りやすい  
担当者が外国人への声かけをし、LINEでお知らせを伝えている

教会で日本語を一生懸命聞いて日本語を勉強している  
教会で日本人と会話ができて、日本語の習得に非常に役立っている  
職場と比べて教会の日本人とはすぐに親しくなれる感じがある  
お互いに兄弟姉妹と思い、相手をキリストのように愛することが出来る教会  
永遠の幸せに与るために家族、友人のために時間を割き、家族、友人の幸せのために自分を与える  
ミサを愛し、隣人、特に困っている人のために祈り、他人の幸せを望むことを通じて神を知らせる  
使徒職のため徳を養い、損得抜きで個人的な付き合いをし、人の幸せを自分のことのように喜ぶ

聖霊に耳を傾ける  
人に神を伝えることをがんばれば神は必ず恩寵をくださる  
全世界に生きる人々でキリストの教えに共鳴する人々が集る場所  
すべての人が神の民であり、全世界の人々を指している  
霊的な一致、係わりが不可欠だから、無関心でなく、出会う人と係わりをもって向き合い、お祈りをする  
祈りで結ばれる家庭的な教会、小さな教会で常に共同体の感覚でいられる教会  
聖体奉仕者グループの病者訪問の役割が大切、行きたくても行けない方のために

どこの国の言葉でも互いに話しあい、声をかけあうことが楽しく、仲間である気がする  
教会に来て皆の顔を見ると安心するし、外国の方と会えるのが嬉しい  
皆さんが親切なので、不安もなく、すんなり受け入れられた  
教会を訪れるすべての人、教会で出会う人  
初めて教会に来られた方に声を掛け、イエスの招きで来られた方、福音宣教のきっかけとして接する  
信徒に限らず、教会に来るすべての人  
信徒ではないが祈りたいと思って来る人

良き共同体—自分もその教会の一員だと皆が思えるという状態  
コロナで聖堂の開放も管理されていると知らずに来て、迷惑を掛けたが、教会に来ることからして、私は楽しい  
いつくしみを持った心ある会話につなげていくことが大切  
一緒に作業し、小教区・ブロック行事・隣接教会との意見交換会で、ともに歩む実感  
ミサだけでは仲間と感じられなかったが、一緒に作業をして話げできた  
部会などで共通課題に協力するとき、「仲間」と呼べる関係が一段上に上がる  
聖歌隊のメンバー(他小教区の信者や未信者も参加できる)

教会は人が集まってつながっているが、オンラインなどでつながることも考えればよい  
教会維持のための責務を果たす人が仲間、教会へ来られる人、または信徒籍がある人  
役員になって、母が共同体の中で大事にされてきたことに気づいて、共同体の存在の重要性を感じた  
役員から電話で連絡をもらって共同体の一員だと自覚することができ、安心した  
定期的には来ないが、繋がりを確認できる信徒  
一緒にみことばを読めなくても、繋がっているという気持ちを絶やさないことが大切  
教区の青年センターに教会の施設を利用してもらっている

子どもたちの信仰が豊かになることを喜び、子どもたちと共に分かち合える場がある  
日曜学校でシスターの話聞くこと、シスターと交われること  
コロナで日曜学校は閉鎖中、「こじか」と手紙を送るだけだが、楽しみにしている子どもあり  
コロナ禍で「聖書と典礼」を送付し、教会に来られない人や一人暮らしの人に声かけをした  
はがきで返信してもらおうと考え、ご絵の裏にメッセージを書いて同封したことがあった  
キリストによって集められたキリストを信じている人の集まり  
カトリックの信徒、主日ミサに集まった人たち、毎週会う人 ロザリオ会のメンバー

信徒、未信徒、国籍に関わらず、毎週日曜日に教会に来ている方々  
ミサに与ることでキリストと向き合うとき、同じ聖堂にいる人たち  
信徒が交流できる場所  
オンライン形式のミサに与る人  
共にミサに与りながら、信徒一人ひとりが個として自立していること

教皇ミサへの参加も、一緒に行った方たちとの親密度が上がった  
自立した個人が一堂に集まって仲間として存在すること  
善いサマリア人のたとえのごとく出会った人が私たちの隣人である  
教会に籍を置く信徒だけでなく、教会を訪れる人々すべてが仲間  
いやし、ゆるしを求めている人、救いを求めて教会に向かおうとしている人も仲間

ともに歩みたいと思われる個人  
キリスト教に関心を持っている人  
同じ目的に向かっている人  
身近にいる家族が仲間、同地区の人  
人生の同伴者は配偶者で、共に旅する仲間の中で最も福音宣教の働きとなり得る、最も小さい共同体  
夫婦がキリストとともに家族に信仰を伝え、友を作り、集まり、支え合い、寄り添って生涯旅をする  
他のキリスト教の信徒、プロテスタントの信徒の方々を思います  
他宗派の方、その他全てを含めて私たちの仲間  
神がお造りになったものは全て仲間、人間みんな仲間  
生きとし生けるもの全て、人間だけではなく神様が創られたすべての命  
地域の教会の友人だけでなく、社会ととらえた方が良い  
地域社会の人々や友人も教会にこだわらずに、分かち合える存在

地域の人々、特に兄弟、姉妹、子どもたち  
調和も対立的な感情も混在していることが顕になった  
教会に身体的または精神的な理由があって来られない人も仲間  
日頃ミサに参加していない信徒も仲間  
子育てで教会に行く時間がないために教会に来られていない人  
信徒であって事情(高齢、病気、家庭の事情、地理的状況など)で教会へ来られなくなった人  
病気や高齢などのために教会に来ることができない信徒、広報などは送付しているが  
病気・連絡がとれなくなった・老人ホームに入っているという理由で教会に来られていない人  
信徒だった家族が亡くなり、家族が信徒でないために縁が切れている人  
コロナ禍でミサに与ることを自粛している人も仲間  
何らかの理由で教会から遠のいている人も私たちの仲間

教会に来ることが出来ない人  
教会で交流の場がない人たちも仲間  
信徒以外の人たち、他宗派の人たち、教派は違ってもキリストを求める仲間  
共に歩みなさいという言葉通り、仏教徒とも仲良くする

違いを認め合って、自分の信仰を大事にすればいい  
教会で話ができる人、相談できる人がいる、心穏やかで、笑顔が絶えない明るい教会  
共同体としては、お互い家族として認め合い、支え合い、愛し合いながら共に歩んで行く  
今は、話したい時に話せて、話したくない時は、そっとしてくれる雰囲気があるので、有難い  
人間関係のトラブルで教会に来られなくなっても、簡単ではないが、また理解し合えた時はより強い絆になる  
退職後に気まずい思いで久しぶりに教会に行くと、話したことのない人が声掛けをしてくれ、知り合いが暖かく迎えてくれて、感謝

携帯電話があるので言葉が通じれば誰とでもメールで連絡が取れる  
制約の中で立ち止まって考えることを誰もが経験した  
高校生の頃に教会と出会い、その後悩みがあって再び教会に来て洗礼を受けた  
教会と福音のために尽くした全ての死者  
神は全ての人の神であり、また道を求める人の神  
教会に行っていない私も神は愛して下さっている  
洗礼を受けていなくても神は見捨てることなく救って下さる  
わたしたち、すべてのいのちの教会であると思う  
教会に来られなくても、キリストに繋がることで愛と祈りのうちに一致ができる

イエス・キリストを信じ、愛し、従いたいと望む人々の集まりで、罪人の集いである  
主体は神、罪深い人ほど神の愛は深く、神は待っていて下さる  
光と闇、天と地と海、草と木、星と太陽、魚と鳥と獣、この世の全てに満ちている神の愛こそが教会  
すべての人が神をより近くに感じ、祈り慰められる場所  
教会で話ができる人、信仰に限らず相談できる人がいる  
信仰に理解ある方々で、真に信仰について何でも話せる  
教会に関心のある人、教会を思う人  
便宜上小教区に分かれていても教会としてはひとつのまとまりである  
信徒でなくとも普段から顔が分かる人たち  
近隣の自治会、老人会、趣味グループ  
他の宗教を同時に受け入れる立場にある人  
財務部担当者は、維持費納入をしてくださる方の名前を知る機会が多い  
財務の仕事の関連で話をする機会があり、同伴者としての意識も芽生えてくる

〈取り残されている・課題〉

取り残されている人たちを、注意深く洗い出し共に歩むべき行動を起こすべきだが、今欠けている  
取り残されていると感じる人はいないと思っているが、知らないだけかもしれない  
取り残されている人への関心が不足で、来ることができない人の事情を知らず、気づいてもいない  
教会に来られない方への働きかけが不十分である

教会は弱い立場に置かれている人々で構成されていないし、大切にしていない  
教会に来たくても来られない人  
経済的事情により、教会へ来ることの困難が生じている  
維持費納入がない方は、取り残されていると感じる  
シングルマザー、あるいは夫がいても実質的にシングルマザーに近い状態の人を考えていない

独居生活をしている高齢者で外出し辛い、介護生活や身体の不自由から教会と距離がある人  
自分で孤立していると感じる人、障がいを持っていてそれを言い表せない人  
聴覚障がいはわかりにくく、教会側が手話通訳可能というようなことを発信していれば助かる  
引きこもらざるをえない人  
病気や家庭の事情で教会に来ることができない人、疲れて教会に来られない人  
病気で来られない、事情で離れている、コロナで来るのを控えている、情報が伝えられていない人

家庭の都合で教会に来られない方を教会にくることができるように考える必要あり  
日常生活に追われ教会やお祈りを忘れてしまっている人は取り残されている  
信徒でない家族から教会に行くことをよく思われていない人、止められている人。  
車を運転できない人、施設に入って忘れられている人  
教会が、老人ホームを運営するなどして、ミサをホームで実施するとかすればそういう人がなくなるかも  
高齢で施設に入っている人、コロナ禍で面会が出来ずに一方通行、会話をしたくて仕方ないようだ  
介護施設に入居している人、病気の人  
入院中の人、グループホーム入所者などで、教会に行きたくても教会に行けない人

障がい者施設にいる方との関わりは課題  
障がい者施設とは行事だけでなく、交流を深めるために、ミサにも参加できるとよい  
障がいのある方たちを支援して、教会に来ることができるように考えていない  
障がい者信徒の声にももっと耳を傾けてほしい  
力障連を知っていても、健常者は関係がないと思っている

#### 人生の先輩

老人は教会に行くこともできず、人とも会えない、だから仲間がいない  
高齢で施設に入り、ミサや教会行事に参加できない人がいる  
高齢で来られなくなった人、介護の必要で親族宅や施設へ移転された人は取り残されている  
高齢者、車の運転ができない人たちの希望に合ったサポートが必要  
運転免許の返納などで教会に行く手段がない人への対応  
車の送迎なしに教会に行けない人がいる(タクシーは費用が掛かる)  
教会に来るために車で片道1時間以上かかる方への対応  
教会まで距離があり、参加が困難、さらに高齢でもあるため取り残されている気持ちになる  
高齢で車を運転できなくなった人あり、介護タクシーも条件があり、簡単に利用できない  
高齢者や車の運転が出来ない人の送迎をしている、今後一層支え合う必要  
高齢者が教会に来にくい状況において、顧みられていない  
高齢者や養護施設、自立支援が必要な方への寄り添いが重要

教会から遠い信徒で年に2～3回しか教会に来られない人は取り残されている

学校・職場の忙しさで集うことが出来ない若い世代の人  
在職中は教会に年2回程度しか行けず知り合いもなく寂しい思いをした  
理由があって教会に来られないことで結果的に教会から離れていく人  
教会から離れていて、つながりや訪問なども無い人  
家庭の事情などで、意思に反してやむなく遠ざかってしまう人  
結婚相手に信徒であることを伝えておらず、行きづらい方  
信徒でない夫と結婚すると妻は教会に行きにくくなる  
信仰に興味がなくなったために自分の意志で教会に来ない人  
自分の意志ではなく幼児洗礼だったので、成長してから自分の意志で教会に来なくなった人

共同体の一員であると感じられていない人

信徒であっても教会と距離ができてしまった人  
教会では求めていたものが得られないために教会に来るのをやめた人  
ミサよりも優先したいことがあるので教会に来るのをやめた人  
様々な重荷を負っている人が気兼ねなく参加できるようになる  
長年来られなかった信徒は勇気を出して教会に来たのだから、配慮してほしい

親しくすることが第一歩

互いを思いやること

接遇に苦手意識がある人、人見知りの性格などに声掛けをする

毎週来ても寡黙な人物も積極的に会話に入らなければ疎外される傾向がある  
自らの意見をしっかり持っているが、何らかの理由で発言しない人もいるため、意見を聞き出すアプローチが必要だ  
教会のごミサにあずかるのだけど、話し相手がいなくて孤立を感じている人  
声をかけても不参加の人、話に加わらない人  
声をかけられるのが嫌な方とは関係が作れない  
諸事情によりミサに与れない人が取り残されないよう常に心を寄せることが大事だ  
事情があつていけなくなった人への配慮ができるようになる

教会に長いこと行かなくなった自分を責めることによって、ますます教会から遠ざかるようになる  
ミサにあずかる頻度が少なく、教会と疎遠になりがち、あるいはなっている人  
親しくしている人たちのグループに仲間入りしにくい、壁があることも  
好き嫌いで人を判断してしまうこと  
孤立、仲間はずれを感じることをないように努力が必要

教会の中で人間関係がなく孤立している人がいる  
対話の魅力発信、コミュニケーション講座、心理カウンセラー講座開催などの企画  
人と交わる楽しさ、愉快さ、笑いを取り戻す大きな努力が今まで以上に必要  
家族が信徒でなく教会から遠ざかっていたが、声をかけてもらって来るようになった  
夫婦が同じ方向を向いてよい老後を迎え、一緒にミサに来ていただきたい  
地域活動の充実(地区集会、信徒による家庭訪問など)をはかる

コロナ禍で、病いの人、高令の方々が、また、子供達が教会から遠のき、取り残されている  
コロナ禍によって有ると思っていた繋がりが意外と脆弱で有ったことに気づいた  
コロナ禍終息後、参加できてない人に声を掛けて誘い、ともに歩む輪を広げて行きたい  
コロナ禍で集まれない状況で、閉ざされた教会になり、仲間意識は希薄になりつつある  
コロナ禍において聖堂を閉鎖して多くの人が門の外に追いやられている

最近教会に来ていない人が気になるが、名前や状況がわかれば訪問などを手伝いたい  
新しい信徒がわからず、声をかけづらく、覚えられない  
新信徒を迎える会、結婚記念の集まりなど行事がなくなっている  
ミサにあずかるだけですぐに帰ってしまうような方々は、取り残されている  
ミサが終わるとすぐ退散になって、人の集まりとしての教会が希薄になった  
知っている人が来なくなった。消息もよく分からないまま

若い人や働き盛り、親や子どもに手を取られる年代は参加したくてもできないことも多い  
教会に来ない若い世代、声を掛ける必要があるが、誰がやるか？  
来なくなった人の事情を考え、積極的に働きかける努力が欠落している  
ミサに来られない人に寄り添う気持ちを大切にしたい  
病気等でミサに出席できない人に贈り物や寄せ書きなどを贈りたい  
取り残されている人について、個々バラバラで心配するのではなく、みんなで心配するという場が必要  
病気で教会に来られない人には信徒が積極的に面会に訪れることが大切  
何らかの理由で教会に来なくなった信徒にも声掛けし、ミサ参加を促す必要がある  
取り残されている人々にどのようにして教会に来てもらうかがむずかしい

台帳には名前があっても連絡が取れない人  
移動届を出していない人は名簿に記載がなく、連絡手段がない  
引越しをして来られなくなった人は取り残されている  
転入して来た信徒に対して教会の仕組み、お金、奉仕などについての説明が不十分  
進学や就職で転出した若者が転出先でどうしているか、チェックする機能が必要  
教会所在地のベッドタウン化による人の移動があり、それに伴い信徒も移動しているが、それに伴う信徒の登録がなされているか否かの検証が必要

情報が伝わっていない人  
教会に来ていても情報が十分行き渡っていない、信徒総会が必要  
少子高齢化で動ける人が減っており、子どもがいない  
取り残されないようもっともっと教会に行きたいと思う  
長期間ミサに参加しなかったためにハードルが高くなった  
普段ほとんどミサに参加しない人は疎外感を感じ、ますます教会から遠ざかるという悪循環  
久しぶりだと入りづらい、足が遠のくと、行き難くなる  
事情があって教会に来られない人にもっと関心を払って絆を深める必要

気軽に集える雰囲気  
子どもや孫たちの中でキリスト教を信仰するかしないか悩んでいる家族や、連れ合い  
何らかの事情で離れていった若い世代  
親が教会から離れたためにミサに参加できない子ども  
反抗期で迷っている子ども  
若い信徒が来なくなり、子どものころから一緒にいた仲間が徐々に来なくなった  
そもそもカトリックの信徒数が少なくなっている、日本では仲間は少ない  
若者は受験やクラブ活動で教会に来られない

若者、子どもが取り残されている

カトリック学校で不登校、退学してしまう生徒

受験等で教会に来られない子どもと家庭への対策として、時々しか来られない場合、教会に行ける時は事前に参加の連絡をすることで、他の人が行こうと思うかもしれない

受験等で勉強が忙しい中で、教会に来た子どもには声を掛ける

受験等で勉強が忙しい子どもには、教会学校の時間を短くすることによって子どもの負担を少なくする

全く教会に来られてない家庭の子どもへの働きかけとして、メールや手紙等で声かけをする

韓国の教会では若者は笑顔で、学校の部活は週1回程度で教会がその代わりの楽しむ場所

教会学校教育を整備し支援すること、信徒だけでなく、子どもたちと司祭やシスターの交わり

ふれあい、出会い、話し合いが、ともに歩むために大切だが、コロナが妨げになっている

司祭と共に過ごせる機会の限られた人は疎外感を感じ、自ら仲間と感じられない

せっかく教会に来たのに、講座につなぐ活動も盛んにできておらず、取り残してしまったかもしれない

洗礼を受けたが教会から離れている人

受洗後、心にかけて声をかけて誘うことが必要

洗礼はスタート、洗礼後教会に来ない人をフォローする必要あり

受洗者には代父・代母の指導・フォローが必要

洗礼を受けたけれど教会に来ていない人は取り残されている

教会を知らない人、行ったことがない人、誘ってもらえない人、教えてもらえない人が取り残されている

地区世話役からの「寄り添い連絡活動」

地区集会運営は地域に住む隣人同士が支え合い親しい絆を作って共同体を身近に感じる

かつては教会に来られない信徒を訪問する活動が行われていた

現在の部会では、教会に来ない人に働きかける機能はないので、地区連絡委員がその役割を果たすとよい

壮年会・婦人会・青年会があったころは、教会で見かけなくなった人のことを話題にしていた

仲間であるための相互の働きかけが大切であること

役員だけでは限界があるし、もっと信者全体が互いに関わり合おうとする意識を持つことが大切

役員だけでなく、地域の人で手分けし、来られない人に「聖書と典礼」などをポスティングする

四旬節や待降節には、高齢で教会へ来られなくなっている信徒への案内葉書の郵送

仲良しグループでまとまっていると、新しい人が、入りづらい雰囲気になる

一人一人の想いが違うことに気づき、互いに寛容な心で向き合いたい

教会が高齢者の仲良しサークルの場と化しているという意見は的確だ

平素から親密でないと協調できないという不毛な日本人体質が教会にもある

教会内の人間関係によって、信仰と教会の現実への失望や関わり合いを忌避するようになる場合

信徒同士の人間関係が原因で教会に来ないことを選んだ人

信徒同士の対立で来なくなった人あり、受洗時の気持ちより人間関係の傷は大きい

教会の中の間人間関係に悩んでいる人

教会の中にある偏見や差別などの問題や負の部分に向き合い、受け入れることが必要

信徒は信仰で結びついているはずだが、日本では大衆的、俗物的な社会と同等の精神レベル

部会参加を敬遠するのは、面倒なことは避ける、フリーの立場でいたいという心情で仕方ない

異なる意見のある人は取り残されてしまう傾向がある

意見が異なるときに難しさを感じるが、仲間としてお互いが近づく努力が必要

信仰の自由を束縛されている人々

利己主義者で他の人や社会一般のことは考慮に入れず自分さえよければそれで納得する人たち

小さい子どもが泣いたり騒いだりすると迷惑になると思うと、教会に行きにくくなる

誰でも訪ねられ、心落ち着く場所であること

家庭的で、つながりがあり、祈りがある教会になりたい

お互いを思いやり、助け合い、いつも裏表なく、お互いを包み込む愛に満ちた共同体になってほしい

苦しんでいる人が神を求めているなら、このような人々に心の安らぎが与えられる福音宣教の環境が必要

教会から遠ざかっている方には心穏やかに過ごせて暖かく包み込んでくれる環境があることが肝要

ミサや行事の実施に手いっぱい、人のことに心を配る余裕がないことが問題

無理をお願いすることでかえって教会離れにならないようにすることが大切

教会に来られた方が、探していることを話せる場を作りたい、長いこと離れた人も戻れる教会になる

人間はか弱きもので、過ちに落ちても、愛をもって暖かく迎え入れ励ます

理由があって自ら教会から離れようとした方、教会からの接触を拒まれる方は取り残されているのか不明

教会に来なくなる方の理由の一つに、人間関係の躓きがある

人に躓いても神が主であるなら、教会に来られると思うが、離れることを選ぶ人もいる

教会内グループでのLINE 使用には、問題点があるという意見および事情を聞くことができた

日常的に隣人愛を育むことは信徒間に潤いを生むので、オンライン化および環境の整備が必要

情報格差を考慮せずに、インターネットを万能と考えることに危険を感じる

情報機器が使えず、ネットからの情報の恩恵がない多くの信徒を無視して、ともに歩むことができるのか疑問

信徒の中には情報機器を使うだけの経済力がない信徒がいることを考慮すること

情報を発信してすべての信徒に届くように、適切な方法を講じて情報弱者を作らないこと

ミサと別の日に掃除があるのがしんどい

お花も生ける人がいなくなったら、業者に依頼してもよい

ミサ当番や各部会での参加、各地区や部会というグループでの助け合いからの広がり

部会等のグループに入っていない人

日本語がよく理解できない人への支援ができていない  
外国人といかに集い、彼らと一体化した教会を作り上げ、共生していくかが急務  
外国人は過疎地域では言葉の壁が大きく、疎外されている  
教会内での外国人(特にベトナム人)向け日本語勉強会の再開  
フィリピン人、周囲が非カトリックの人々  
フィリピン人コミュニティを考慮し、親密さを深める  
文化や習慣の違いによって外国人グループとの関係が難しい  
外国の人もよく来るが、言葉が分からず会釈程度となり仲間という感覚は薄い  
外国の人に話しかけても、話が盛り上がり、関わることを迷ってしまう  
外国人のコミュニティに属していない外国人  
最近ペルーの方を見かけなくなった  
外国人と未信徒の日本人の子ども  
他国籍の方とともに聖書の輪読会をする  
多国籍の教会、共同体の仲間として関わりを深めていくこと  
未信徒が教会に来ることが無くなってきた、閉鎖的な所があるからか

助けが必要な人は、こちらが定めるのではなく、日常の中で向こうから来るもの  
クリスチャンである前に一人の人間を人として大事にする  
愛は家庭から、隣近所から、近所の人にあいさつ、声掛けをする  
成果を見たがるが、結果を期待したらダメ～しなければ等と思いつぎるのはよくない  
もっと開かれた教会に(信徒のことしか見ていない)  
信徒が日本社会で取り残されている感覚をもっている、社会に交わっていく必要がある  
子どもたちは大きくなると信仰を伝えるのも難しくなり、親がバカにされる  
ともに歩むというより、自立した信仰を持ち、強く生きたい  
30数年、役員をしたが、旅の同伴者がいないことが寂しい、後継の役員がいない  
恵みとして洗礼を受けたが、神から選ばれた者という意識がないのは残念  
コロナ禍の影響で高齢者、体の不自由な方等にとっては教会から配慮されない存在になっている  
近年の長寿社会は信徒の高齢化をもたらす

コロナ禍の新しい教会のイメージがわからない  
コロナ禍で奉仕のあり方も変更があり、そのために閉ざされ疎外されていると感じる人が多い  
コロナ禍で、信徒の共通認識と事実とのギャップにどう対処したらよいのか、現在の教会における大きな課題  
コロナ禍において、教会に来られない状況ではどのような信仰生活をすればよいかわからず困っている  
コロナ禍で教会に行かないことに慣れてしまい、コロナ後に行けるか不安  
ワクチン接種をしていない方は教会に来にくいと思っているが、来てもよいと思う

教会に行きたいけど行けない方々の信仰をどうやって継続させられるか  
姿を見ない方を気にかけているか、病に苦しむ人のために祈っているか、見直す必要がある  
交わりのあった方のことを部の中で情報共有して、分かち合い、お祈りすることを大切にしたい  
共に旅する仲間のことにどれだけの関心をもつことができるか  
教会に来ていない人のことを心配する声もあるものの、全く来なくなった人には関わることはしなくなる  
あまり接していない人、困っている人、病気や高齢者をもっと大事にすべき  
あまり好きでない人、教会と関係ない人、病者や障がい者  
悲しい時、苦しい時、神の助けを待っているだけという反省  
輪読会で食事会もあり、交流ができていた  
隣接の幼稚園と、以前やクリスマス、復活祭など一緒にイベントをしたが、最近は機会がない

幼稚園や養護老人施設に関わっている人  
カトリック施設の職員は信徒でないが、キリスト教の精神で働いていて、施設の職員の献身には小さくされた  
人々との関わりについて学ぶ点がある  
従来は性的マイノリティの人々が受け入れられづらい環境にあった  
ともに集い、祈り、話せる、話を聞くことができること  
近くに信徒もいないので、話をすることもない

知らない人が多くなった  
ミサに参加する方で維持費を払う人30%、活動を担う人10%、それ以外の方は乗っかっている人  
複数の小教区が一つになっても、それぞれが別々に歩んできたので、まとめて行くのは司祭で、教会である  
神が作られた人、自然など、理解するのを諦めてしまった時、取り残されてしまう  
神の愛に満たされていない人が、取り残されている  
クリスチャンなのにと決めつけられると、戸惑う  
キリスト教の信徒は特殊だと思われることがあると、誰でもが仲間と思えない状況もある  
旧来の風習の濃い地域で共に暮らす上での辛さ

「わたしたちの教会」という言葉は、教会の主役を「わたしたち」という表現していて違和感がある(あるブロック  
では、「わたしたちの」という言葉を付け加えて質問している)  
教会を支えているという自覚をもつこと  
少しの勇気をもって、今与えられている奉仕を通して、教会・仲間とのつながりを感じて頂けるようにする  
祈りにおける連帯が必要  
神と同じまなざしでこの世界を観想することを忘れると、誰かが取り残される

#### 〈その他〉

シノドスの質問は教会に来ることを前提にしている、来られない人は参加できない